

令和元年度 下水道維持管理業務取組み発表会
発表概要

所属
矢部川浄化センター
発表タイトル
360度カメラの利活用による維持管理業務の効率化について
取組の目的
<p>下水道施設の維持管理を行う上で、現場状況の把握は最重要である。現在はデジタルカメラやスケッチといった手法で記録しているが、近年安価に普及しはじめている市販の360度カメラを用いることにより、</p> <ul style="list-style-type: none">・現場全体の写真を1枚で把握できる。・何度も現場に再確認・再撮影に行かなくてよい。(特に幹線管渠やポンプ場)・全社共有フォルダに保存すると、全センター職員で簡単に情報共有できる。 <p>などの利点が考えられる。</p> <p>このため維持管理の利便性向上やコストの縮減に、当該カメラがどのように利活用できるか、デメリットを含め模索・検討し、可能な部分から実用化を図るものである。</p>
取組内容
<ol style="list-style-type: none">1. 画像リソースの収集・蓄積<ul style="list-style-type: none">・場内、幹線管渠、ポンプ場における360°カメラによる静止画、及び動画撮影の撮影・機器の故障等における臨時の撮影2. 利活用方法の検討とデータ共有による実用化
取組成果・効果
<ul style="list-style-type: none">・場内各所の状況把握に効果的。・資料作成において、画像から必要な部分を切り取り利用することが容易に可能。・機器故障等における状況の把握では、当初想定していた効果が十分ある。 (例：台風17号では屋根に被害を受けた。容易にアクセスできない箇所だったが、1枚の写真でも被害の内容・規模感等、素早く状況を把握し情報共有することが可能であった。)・槽内や水中での撮影により、危険を冒すことなく内部の把握が可能であった。